

阪神甲子園球場 照明設備LED化



所在地：兵庫県西宮市甲子園町1番82号
敷地面積：54,203.54㎡
構造：RC造、一部S造
グラウンド：規模/両翼95m、中堅118m
観客席数：47,541人(内野:28,498人 外野:19,043人)
事業主：阪神電気鉄道株
電気工事：中央電設株
完成：2015年3月

S317

大正13(1924)年に開場し、「野球の聖地」と称される阪神甲子園球場。定期的な施設改修が行われるなか、このたびバックヤードを中心に、一部エリアの照明器具をLED器具に置き換える工事を実施しました。

一部エリアの照明器具のLED器具への置き換え工事を実施

阪神甲子園球場は、プロ野球阪神タイガースの本拠地球場、高校野球大会の開催球場として知られ、長年野球ファンに愛されています。大正時代に生まれた国内最大クラスの収容人数を誇るこの野球場は、設備の新設、改修を繰り返して行ってきました。平成19(2007)年からは約3年間にわたり全面リニューアル工事として老朽化対策、耐震補強、環境配慮のため本体ならびに外構整備工事を実施し安全性、快適性を高めています。そしてこのたび、省エネ、メンテナンスコスト削減のため、バックヤードを中心とした、一部エリアの照明器具をLED器具に置き換えました。

LED照明により、快適性を向上しつつ省エネ、メンテナンスフリーを実現

今回の工事では、事務所、ロビー、廊下、会議室、控室、ロッカールームなどのほか甲子園歴史館のエントランス、阪神タイガースショップ内の照明をLED器具に置き換えました。廊下、球場事務所、1・3塁ベンチ、素振り室などにおいては、照明器具本体と光源部のLEDバーを設置場所にに応じて選べる、LEDベースライトTENQOOシリーズが採用されました。TENQOOシリーズは、独自のカバー構造でLEDの光を無駄なく広げるため、高い省エネ性能を発揮します。またLEDバーのラインアップが豊富で、誰でも交換・取り付けができるためメンテナンス性の向上を実現しています。

このほかインタビュールームや選手控室には2灯の直管形LEDベースライト(高出力タイプ、消費電力55W)を採用し、落ち着いた雰囲気をつくることともにHf32W形×2灯用器具と比べ約40%の省エネを実現しています。ロビー、廊下の一部、会議室にはLEDベースライトスクエア器具埋込形を採用。演色評価数Ra83の光源に乳白カバーを付け、クリアで自然な空間をつくっています。また券売所、ホール、トイレには従来よりランプ効率を高めたLEDライトエンジンダウンライトを採用しています。



LEDベースライトTENQOOシリーズを採用したダッグアウトの照明



直管形LEDベースライト(高出力タイプ)で明るく落ち着いた空間とした選手控室



囲みインタビューなども行われる廊下のLEDベースライトスクエア器具埋込形の照明



内装に合わせたクリアで居心地の良い廊下のLED照明



レースウェイを用いて設置されたタイガースショップのLEDシーリングダウンライト



甲子園歴史館の受付周辺のLED照明

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	備考
バックヤード	LEDベースライトTENQOOシリーズ埋込40形(Cチャンネル回避)	LEKR423691N-LS9	117	LED 消費電力:47.5W
	LEDベースライトTENQOOシリーズ直付40形(反射笠)	LEKT415401N-LD9	103	LED 消費電力:22.0W
	直管形LEDベースライト埋込形2灯	LER-42800-LS9	99	LED 消費電力:51W
	LEDベースライト一体形スクエア器具埋込形450タイプ	LEDR-148221NK-LD9	58	LED 消費電力:50W
	LEDベースライト一体形スクエア器具埋込形600タイプ	LEDR-161121NK-LD9	27	LED 消費電力:75W
	LEDライトエンジンダウンライト	LEDD-16001M-LD9	63	LED 消費電力:9.8W